

# 風土記の丘の花だより179

## 今、そしてこれから見られる植物(2023年4月1日)

今日から4月、新しい年度が始まりました。桜だけでなく、スミレをはじめ多くの草花が咲いて、まさに春爛漫の季節になりました。



万葉植物園でヒトリシズカが咲いています。余りにも小さいので、よくのぞき込まないと見つけにくいです。この草はセンリョウ科の植物で、早春に名前のとおり一人静かに花を咲かせます。花と言っても花びらも萼もなく、白いおしべがブラシのように見えます。茎は少し赤みを帯び、上の方に4枚の葉が目立ちます。変わっていると言えば、変わった姿の花ですね。これからこの周りで咲き出すフタリシズカは二人といいながら、1本のものも、3本のものもありますが、ヒトリシズカはだいたい1本です。



上にも書きましたが、いろいろなスミレが咲いています。タチツボスミレに似て、写真のように葉が少し細長いスミレはナガバノタチツボスミレといいます。葉も名前も長いですね。花の色が濃くて、中央の網目模様が明瞭なニオイタチツボスミレという、これまた長い名前のスミレも咲いていますが、このナガバノ・・・はタチツボとニオイの中間くらいの色の濃さです。(主観でそんなに言われても分かりませんよね) スミレの見分け方は本当にややこしいです。



おしそうな「たらのめ」です。たしかに天ぷらにして食べると本当においしいのですが、これを採って持ち帰る人がいて困っています。「山に生えるものだから、採るのは勝手だ」と思っておられるようです。新芽をもぎ取られた痛々しいタラノキを見て、多くの人がタラノキと同じように心を痛めています。たらのめを採るとその下の節からまた新たに芽が出ます。でもそれも採られてしまうと、タラノキは弱って、枯死することも少なくありません。マナーを守ってほしいものです。



まだ葉が展開していないクヌギの木に雄花が垂れ下がっています。もうすぐこれが辺り一面に降り積もるように散ります。春の初めの風景の一つですが、外のお掃除をされる方には困り者です。毎年、袋に何杯も掃き集めてくださっています。ナラ枯れでクヌギの大木がたくさん枯死しましたが、それもピークを越したように思いますので、また樹勢を取り戻し、たくさんのどんぐりを実らせてくれることでしょう。この花だよりも次の号で180号です。我ながらよく続いているものです。日頃のご愛読に感謝申し上げます。これからもよろしくお願いします。 松下